

認定NPOグリーンバレーに携わる人たちの想いを伝えるニューズペーパー「グリーンバレージャーナル」

GREENVALLEY JOURNAL

Oct 2021 vol.15

復活！神山塾

時代の変化に流されない「自分のものさし」を築いていく。

復活！神山塾 時代の変化に流されない 「自分のものさし」を築いていく。

「神山塾」は、2010年12月に神山町リレイションが協働で運営する人材育成事業。新生神山塾が再始動します。

価値観が多様化し、生き方や働き方が変わりたいことがわからない、そんな取組めないでしょうか。社会そのものが成熟



大南さん(GV理事 大南信也氏)が神山塾生と一緒に地域散策

神山塾は「地からの学び」

「神山塾」は、認定NPO法人グリーンバレー (GV) と株式会社リレイションが協働で運営する人材育成事業です。リレイションが主催する地域滞在型の職業訓練がベースとなっており、「神山に滞在すること自体が学びになる」プログラムです(「地域滞在型」は私の造語です)。これまで主に「地域活性化コーディネーター養成科」として、地域の魅力を掘り起こすイベントの企画や運営について学ぶ訓練を実施してきました。

神山塾を始めたのは2010年12月のこと。

私は2008年にリレイションを創業し、GVの「森づくり」活動や棚田再生事業などにに関わり始めていました。事業といっても金銭的なリターンは一切ありません。しかし、神山という土地やそこに住む人たちと、一緒に米作りをしてみるなどの活動を通じて人間の生きる知恵や力を学びました。この「地からの学び」を受け継いで多くの若者に知ってもらいたい、そういう思いから神山塾は始まっています。「地からの学び」をどのように形にしていけばと考えていた時、たまたま国の職業訓練制度のことを知り、何か活用できる方法があるのではないかと考えました。最初は前例がないからできないとか、教育機関でもないNPOでは無理だと受付窓口で門前払いされることもありましたが、粘り強く交渉を重ねた結果、2010年12月に基金訓練として「神山塾」第1期を開講することができました。その後、神山の皆様のご協力のもと、制度を変えながらも2019年まで断続的に運営し続け、今では卒塾生総数が180名を超えるまでになりました。

そして、このたび2021年11月から約3年ぶりに神山塾を復活させることになりました。

神山塾の参加者は多種多様

神山塾の参加者は実に多種多様です。20～30代の都市部に住む若者をメインターゲットとして想定していましたが、第1期開講時ふたを開けてみれば、当時60歳を過ぎた神山塾のお母さんの存在の栗飯原 國子(あいほら くにこ)さんや、岩丸さん※宅に遊びに来ていた若者、すでに神山に移住していたアーティストや主婦の方など、実にさまざまな人が集まりました。

神山という町そのものが多様性に溢れていることもあり、神山塾もまた、毎回さまざまな年齢、背景、キャリアを持つ人が集まり、寛容性と創造性のある自然豊かで、心優しい、面白い里山で「自分のものさし」を磨いてきました。

※岩丸さん：岩丸潔氏(神山町神領在住)GV発足時メンバーで現在もGV理事。岩丸百貨店を営み、長年ボランティアで移住者支援を担当。(GVジャーナル2020年3月号をご参照)

集まる人のなかで「起業してこんなお店をやりたい」「移住してこんな生活がしたい」など、はっきりした目標を持って参加する人が全体の約2割ほど。多くの人はそれまでの仕事や生活、人生への違和感にモヤモヤして立ち止まりなくなったり、忙しさや窮屈さから心身を壊したあとの「リハビリ」をしたりしながら神山塾に参加します。

キャリア理論では、何かが終わった後と次が始まる前のあいだのこうした期間を「ニュートラルゾーン」といい、この期間をうまく過ごすことが重要だとされています。神山塾はそんなニュートラルゾーンを過ごす若者たちが、前向きに立ち止まる場、いわば人生の踊り場として機能してきたのではないかと思います。

町でスタートとしたグリーンバレー（GV）と株式会社成事業です。3年余りの活動休止を経て2021年11月に

に変化や挑戦を求められる時代の流れの中、「自分のに残されたような感覚をおぼえる人も増えているのでは」、情報に溢れ、生まれた時から豊かな暮らしが用意

された中では、多くの人が共通して持つ「幸せな人生」のイメージ、いわば「幸せのものさし」がありました。が、いまでは一人ひとりが「自分のものさし」で生きていく正解のない時代となりました。

神山塾ではこれまで10年にわたり、徳島県 神山町という寛容性と創造性のある自然豊かで、心優しい、面白い里山で、全国から集まった180名以上の塾生が「自分のものさし」を創り、磨いてきました。塾を主宰するリレイション代表でGV監事でもある祁答院 弘智（けどういん ひろとも）さんからのメッセージです。



神山塾で何を学べるか



森づくり体験

神山塾は公共の職業訓練なので、カリキュラムがあります。基本的には座学で、神山の地域づくりについて学んだり、職業人講話でさまざまな経営者やクリエイターの方々のお話を伺ったり、イベントの企画運営について勉強したりしています。

また、「書く」と「話す」を軸にグループワークを行って受講生が自己理解を深めていくことも大切にしています。時には外へ出て、フィールドワークとして神山の農作業やお祭りなど行事のお手伝いをさせていただくことも。そして学んだことをもとにイベントを企画・実践や、受講生それぞれの興味を形にするマイプロジェクトの企画などアウトプットの機会も多く設けています。



徳島県の南部、海陽町での町外研修に参加

「塾」といっていますが、パソコンの使い方やデザインのやり方、英会話、簿記など具体的なビジネススキルを身につける場ではありません。あえて言葉で表現するなら、多様な価値観を持つ人々と共に仕事を行なっていく上で必要不可欠とされている「社会人基礎力」を高めるための塾です。

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成され、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱したものです。

※社会人基礎力について
経済産業省



神山塾でのさまざまな活動からこの社会人基礎力が身についていくと考えています。その結果、卒業生たちはジャンルを問わず、起業する人もいれば、一般の企業に勤めたり、NPO法人や地域おこし協力隊に入るなど、自分なりの社会の居場所を見つけ、それぞれに活躍しています。

自分のものさし、つまり、自分の価値観とはこれまでの自分が知っていることや経験したことからは生まれません。今の自分の現在地点を知るためにあえて、これまでと違う環境に身を置いて、今までと違うことをしてみる。これまで出会ったことのない人と関わって情報交換をしてみる。今まで選ばなかったことに挑戦することで、あらためて自分が大切にしたいことが見えてきたり、逆にやりたくないこともわかってきたり。

カリキュラムも大切なのですが、やはり神山での暮らしからの学びが一番大きいのではないかと思います。それまで都市部で便利な暮らしをしていた若者が、交通手段もコンビニの数も限られた場所に来て、一見不便な中にも豊かさがあることを学ぶ。多様な塾のメンバーや町の人と出会い、交流することから学ぶ。そんなことが一番大切なのだと思います。



神山塾生の神山体験時間

これまで、多くの塾生は東京や神奈川、大阪といった都市部からやって来ていました。まず必要なのは住む場所。神山スキーランドホテルで合宿をしたり、岩丸さんや栗飯原さんの家に下宿させていただいたり、各企業のシェアハウスをお借りしたりと、神山町の皆さんのご厚意により塾生たちが安心して神山で暮らすことができました。



神山塾ゲストスピーカーと河原でワークショップ

塾のカリキュラム以外の神山での暮らし。これが塾で過ごす時間よりも大事な学びになります。冬場は薪割り、夏場は川で涼むなど、四季折々の豊かな自然と日本の昔ながらの暮らしが今も残る神山暮らしの体験は都会の若者たちにとっては新鮮なものです。塾で嫌なことがあっても、家に帰れば「神山のお父さん、お母さん」が話を聞いてくれたり、家に集まってきた人と自然と飲み会になったり。そんな温かい時間も得難いものです。

一方で、神山にサテライトオフィスなどを設置する企業の先進的な取り組みにも触れることができ、さまざまなバックグラウンドを持つ移住者と交流することもできる。昔ながらのものと最先端のものの両方に触れることができる神山での体験は貴重な時間となっています。



神山塾生のお父さん、岩丸さんのお家でホームパーティ

神山塾 卒塾生たちの活躍

のべ180名以上の卒塾生たち。中には塾が終わったあとも神山に残り、活躍している方々がたくさんいます。例えば上角(うえつの)地区の梅星茶屋で火曜と水曜にカフェElevenをやっていたカンちゃん(神先岳史さん)は現在「WEEK神山」の代表としてさまざまな挑戦をしています。もともと染め物をやっていたタッキー(瀧本昌平さん)は天然染料の染めもん屋「染昌(そめしょう)」を、アッキー(植田彰弘さん)は上分江田集落の棚田の暮らしを丁寧に受け継いでいってくれています。



神山塾の原点、上分江田集落での収穫作業。3期生アッキー、6期生まさくんと一緒に。

ほかにもGVや株式会社えんがわ、B&B On y va & Experience/旧:カフェ オニヴァなど神山に根付いた企業・組織で生き生きと働いている人がたくさんいます。

地域おこし協力隊としてほかの地域で活動したり、青年海外協力隊の道を選び海外に行った人も。そして、弊社リレイションのスタッフもほとんどが神山塾出身者です。

私自身、神山塾生と一緒に悩み、泣き笑いしてきた経験の中で、多くのことを学ばせてもらい、気づかせてもらいました。

神山塾生みんなのおかげで、私の神山プロジェクトも、リレイション事業も続けることができています。神山塾生のみんなには感謝の言葉しかありません。

神山塾のこれから

冒頭でも少し触れましたが、2021年11月から3年ぶりに神山塾を復活させることになりました。SNSで神山塾復活の情報を発信した時には、多くの方が応援のメッセージを下さり、コロナ禍という大きな変化の時代、神山塾という学びの場に多くの方が期待を寄せてくださっていると感じました。



2014年元旦に、神山塾の取組が徳島新聞一面に掲載

現在は、2021年11月開講予定の「地域活性化コーディネーター養成科」と、2021年12月開講予定の「地域環境循環SDGs(ものづくり)コーディネーター養成科」の準備をしています。

また新たな若者たちと出会い、共に学び、共に挑戦していけることを楽しみにしています。

※「地域活性化コーディネーター養成科」は10/12に、「地域環境循環SDGs(ものづくり)コーディネーター養成科」は11/2に応募受付を終了。

神山塾を続けているモチベーションの源は、2008年5月から神山町の「神山プロジェクト」に参加し、常に創造的過疎の町として寛容に創造的に変化する神山町のまちづくりのプロセスを、多くの人にただ知っただけじゃなく、五感をフル稼働して体感してもらいたいという思いです。

そして、誰かのため、地域のため、未来のためじゃなく、自分のために、地域と共に、未来と共に今をワクワク生きる若者を、また、常識や他人の評価に縛られず挑戦や変化を楽しめる人材を、神山塾から全国の田舎に輩出していきたいと考えているからです。そして、GVのミッションである「日本の田舎をステキに変える！」ためです。

神山の皆様、GVの活動を応援してくださる皆様、もう終わったかな、もう止めたかなと、幾度となく降りかかる困難や経営危機を乗り越えて、肺魚なみの生命力で復活する「神山塾」を、新しく神山で挑戦を始める神山塾生をこれからもよろしくお願いします。

最新情報はここから発信しています。

神山塾Facebook



江田集落のアッキー棚田、あゆハウスのみんなと稲刈り&はざかけしました！
※あゆハウス：城西高校神山校の寮



子供イベント準備のツリーハウスづくり

地域の人々と交流しながら

自分の生き方、暮らし方、働き方を考える。

昨日までの自分は変えられないけれど、

明日からの自分は、今この瞬間から選んでいける。



最近のKAIR (神山アーティスト・イン・レジデンス)



道の駅アートウォーク大看板、老朽化のため撤去しました

皆さん覚えているでしょうか？15年前の2007年に第22回国民文化祭・とくしま2007(おどる国文祭)、そして10年前の2012年には第27回国民文化祭・とくしま2012が盛大に開催され、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーベンの第九」をモチーフとし、その魅力が発信されました。

神山町では、人形浄瑠璃、襖からくり、神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)がその一端を担い、KAIRでは、現在も毎年更新されながら使用しているアートマップの作成、道の駅「温泉の里神山」に大栗山アートウォークの大看板を設置、町内でのれんプロジェクトを実施するなど、様々なアートイベントを開催しました。



2007年に武蔵野美術大学のインターン生がデザインされた大看板は、経年劣化により内側の枠が朽ちてしまったため、残念ながら去る6月23日に完全撤去いたしました。長年親しんだ看板を取り外す際に、少し虚しく、悲しい気持ちになりましたが、作業に携わった方々と「また予算とタイミングが合えば、新しい看板を!」という思いを一つにして撤去を終えました。

神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会会長

杉本哲男



ほんのひろば

ほんのひろば、引っ越しました!

4月に本の大半を引っ越したほんのひろば、広野小旧校舎で様々な「初めて」を経験中です。初の「困った」は「暑さ」でした。

7月の梅雨明け頃から徐々に暑くなり始め、少しでも涼しくなる工夫をこらしながら開催しましたが、ある晴れた午後に温度計が37℃を叩き出したのを見て8月の休室を決めました。そして9月になって少し気温が下がり開室の機会を探っていましたが、続くコロナ禍、そして徳島アラートの発令もあり、引き続き休室に。その代わり通年オープンしている改善センターのほんのひろばや、町内各出張所にこれまでより手を入れています。

なかなか思うようになりませんがやることはたくさんある、よし!今こそと思い、Googleマップへのマッピングを行いました。「ほんのひろば」でググっていただき、それぞれの開室時間や、行き案内にぜひご活用ください。



GVメンバーリレー

後藤 涼介

神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス(KVSOC)担当

はじめまして。前任の砂田 莉紗さんから引き継いで、9/1からコンプレックスで勤務開始しております。神山町に移住したのは6ヶ月ほど前、修論を書き終えてすぐでした。2月半ばの徳島県は豪雪でした。当時住んでいた神戸からカブで和歌山港まで下り、フェリーで徳島港へついた僕は、一面の銀世界を前に「とんでもない場所に來たな…」と思いました。いまは「森西ハウス」※で暮らしていて、ちよくちよ料理をするようになりました。



夏はかぼちゃの甘煮をよく作りました。神山では、買いに行っても目当ての食材がない、という事態が新鮮でした。特に、旬じゃない野菜が少ない。対して、旬の野菜はめつぼう安いし、何より美味しいです。実家の大阪に帰省する時、道の駅で野菜を買って帰ります。神山のキュウリと大阪で買ったキュウリを食べ比べると、味が全然違うんです。神山キュウリは強い風味があって、大阪キュウリはなんだか腑抜けた感じでした。

神戸にいたときは、旬の食べ物がいいとは言っても、どれが旬なのか分からないほど、いろんな野菜が売っていました。神山では、旬でない野菜はそもそもお目にかかれない。でも、神山の方が食の正味の喜びは大きいように思います。あんまり調理しなくてもおいしい。便利と自然は違う。当然のことを神山に住んでみて実感しています。※起業家向けシェアハウス

表紙

『秋の焼山』

撮影：生津勝隆

澄んだ秋空に映える、焼山寺山山頂。お彼岸を過ぎた頃、暑さとすだちと稲刈りからようやく解放された清々しさが、神山に漂っていた。



神山のサポートについて

グリーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。私達の活動趣旨にご賛同いただき、暖かいご支援をぜひお願いいたします。詳しくは以下のページをご覧ください。

<https://www.in-kamiyama.jp/donation-to-greenvalley>

発行/お問い合わせ

認定特定非営利活動法人グリーンバレー
<https://www.in-kamiyama.jp/npo-gv/>
 MAIL: greenvalley@in-kamiyama.jp
 〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132
 TEL: 088-676-1178
 (編集: ニイチ トセ)

